



414
A 756



千八百八十一年三月廿四日刊行横濱「ヂヤツ」が
ゼット新聞抄譯

日本賞金

先月十八日「サンフランシスコ」商法會議所ニ於テ日本
賞金ノ事ニ関シ議院へ進呈スヘキ數條ノ議案ヲ商議
マシカ為メ會議ヲ開ケリ
副會頭「エー、ピー、ウヤルリヤム」氏先ツ言ヲ發シテ本日
集會ノ趣意ヲ演說シ而シテ書記ヲシテ右議院へ進呈
スヘキ議案數條ニ外國關係ノ事件取調委員ノ報告
ヲ讀下セシメリ
書記即チ二千二百拾壹号一院議按ヲ讀下ス曰ク大統領

天正
限正
十一年
四月
寄贈



ハ日本償金ノ名ヲ以テ海務省ノ管轄ニ付シタル資金
中ヨリ貳拾四万八千圓ヲ合衆國軍艦「ウォーミン」号乗
組ノ士官及水夫若シクハ其法律上ノ代理人ニ其一
千八百六十八年七月十六日下ノ関海峡ノ役ニ於テ敵
艦攻撃ノ際危険ヲ冒シテ尽力勉勵セル至貴至重ノ勲
功并ニ合衆國軍艦「ゼーマス・トウ」号ヨリ分隊セル流
船「トーマン」号乗組ノ士官及水夫若クハ其法律上ノ
代理人ニ其一千八百六十四年九月四日、五日、六日、七日、
八日ニ於テ盡カレシ同一ノ勲功ニ酬ユヘシ
又工院議案第二千二百拾二号ニ曰ク大統領ハ現今日本
償金ノ名ヲ以テ國務省ノ管理ニ付シタル金百四拾六
万三千貳百貳拾四弗ヲ日本政府ニ拂フヘシ

ペムローク船ノ事件

尋テ又外國關係ノ事件取調委員ノ報告ヲ讀下リ曰
ク長州藩ハ幕府カ外國貿易ノ為メニ諸港ヲ開クノ政
略ニ對シテ公然反逆ヲ企テ随テ近代鑄製ノ大砲ヲ以
テ装置セル堅固ノ堡臺ヲ數處ニ攝ヘ下ノ関海峡ヲ閉
鎖シテ以テ外國通商ノ航路ヲ絶テリ一千八百六十
三年六月合衆國ノ旗章ヲ揚ケタル米國汽船「ベム
ク」号カ貨物ヲ載セテ横濱ヨリ長崎ニ赴クノ際該海峡
ヲ通航セント欲セシカ陸地ノ堡臺數所并ニ長州藩ニ
屬セル一軍艦ノ砲撃ニ逢ヘリ然レモ「ベムク」号船
ハ幸ニシテ砲撃ノ害ヲ被ムラス又一人ノ死傷モナク
ニテ船ヲ回シ長崎ヘノ進航ヲ止メタリ是ニ由テ米國
公使ハ損害ノ補償ヲ請ヒ且ツ「ベムク」号船ノ官「マク

ドールガル、米國公使ノサ、固ニ依リ翌七月合衆國汽船
コオミシ号ヲ率テ復酬ノ為メ長州ニ向ケ進發セリ
然リ而シテ氏カ下ノ関ニ達スルヤ同藩ニ属セル三隻
ノ船舶岸ニ近ク投錨セルヲ見出セリ因テ氏ハ直クニ
突進シテ此船舶及ヒ陸上ノ敵堡ヲ襲撃シ兩軍鏖戦須
臾ニシテ一風帆船ハ沈水シ一汽船ハ破裂シ為メニ即
死四十人ニ及ヘリト云フ「ウォーミン」号ノ損害ハ即死
五人負傷六人ニ過キス佛ノ汽船及ヒ和蘭軍艦モ亦此
海峡ニ於テ反逆ノ名ノ砲撃ヲ被リタリ英艦ハ一モ斯
ル襲撃ノ害ニ罹ラス當時我カ公使「プリエイン」氏「ベ
ム」ブローク船ノ為メニ時間運賃等ノ損害補償トシテ
金額壹万弗ヲ日本政府ニ請求シ日本政府ニ於テ、速
カニ此請求額ヲ請求ニ任セテ拂渡セリ而シテ合衆國ノ

旗章ヲ汚セル凌辱ニ對シテハ「コムマンドル」官「マクド
ール」氏既ニ十分ニ復酬スル所アリキ一千八百六一
四年八月十五日ニ在テ我カ合衆國公使ハ大英、佛、蘭、西
和蘭ノ三公使ト共ニ下ノ関海峡ノ航線ヲ開キ併セテ
長州藩ノ堡臺ヲ破壊シ兵器ヲ掠奪センカ為メ此機ヲ
失ハスレテ船隊ヲ派遣セン「ト」ヲ協議シテ盟約書ニ調
印セリ
此ノ遠征師ヲ組織スル所ノ船隊ハ英艦九隻佛艦三艦
蘭艦四隻而シテ合衆國ハ「ト」キヤント号スル艦一
隻ヲ以テ下ノ関海峡ニ向テ進軍シ九月五日、六日、七日、
八日ノ合戦ヲ以テ悉ク長州藩ノ砲臺ヲ破滅シ武庫ヲ
燬燒シ彈丸ヲ海中ニ放却シ加フルニ七拾余臺ノ大砲
ヲ掠奪セリ是ニ於テ長州藩ハ我カ軍門ニ降ヲ乞ヒ遠

征費辨償ノ額ノ如キハ各國ノ公使ヨリ請求スル所
任スヘキ旨ヲ約セリ蓋シ合衆國船舶ノ損害ヲ被ム
リタル金額全計ハ貳万五千五百拾七弗ニ過キ然ルニ
一千八百六十四年十月二十二日ニ於テ此遠征費補償
トシテ各國ハ金額三百万弗ヲ領收シ夫ノ孱弱ニシテ
信義アル日本國ヨリ我國ノ利得ノ為メニ倖獲セシ金
額ハ七拾八万五千四ナリ畢竟此金額ハ不信不義ニ出
テ今日我々米國ニ存在スルモノナリ
斯ノ如クナルカ故ニ右七拾八万五千四中ヨリ拾四万
四ト五分ノ割合ニ當ル利子トテ合セ貳拾四万八千四
ヲ引去リ殘額ハ金貨ヲ以テ百拾六万三千貳百貳拾四
弗(但シ右七拾八万五千四ハ我々政府ノ公債証書ヲ以
テ保存セシ)貳拾四万八千四ヲ引去リ尚殘リ百四拾

六万三千貳百貳拾四弗トナル)ヲ日本政府ニ還付スル
ヲ至當ト認定

議院へノ建議

下名某等ハ「カリフォルニア州」「サンフランシスコ」府ノ
商法會議所ノ總代トナリ至尊至貴ナル合衆國工院及
シテ下院ニ書ヲ捧ケテ以テ當會議所ノ意見ヲ列陳稟議
ス抑モ方今合衆國工院ノ商議中ニ在テ未タ其結ヲ了
セサル上院議案第貳千貳拾貳号ハ曾テ英佛蘭英ニ我
カ合衆國等各政府ノ代人ニ由リ「日本賞金」トシテ僥獲
セシ金額ノ中我合衆國へ分領セシ若干金額ヲ日本ニ
還付ノ件ニ係リ當商法會議所ニ於テハ再三再四熟
慮ノ未該議案ヲ以テ極メテ公平正直ヲ得タルモト
考定セリ然リ而メ當會議所ニ於テハ該件ノ事歴ヲ熟

視シ此償金ヲ日本ニ還ルハ合衆國万般ノ利益
從テ振起スヘキヲ信シテ疑ハス故ニ當高法會議所
ハ切ニ希望ス至尊至貴ナル上下兩議院ニ於テ速クニ
該議按ノ可決ヲ歷ルヲ見シトテ且ツ當高法會議所カ
故チラニ該件ニ就キ兩議院ニ上書シテ頻ニ斯ル請願
ヲ為スモノハ東洋海岸ニ在ル我一高市ヲ經テ日米兩
國ノ貿易十中八九ヲ行フノ理由アレハナリ

議長

ウヰルリヤム、チー、バブユック

書記

モルリス、マルキユス

高法會議所 於テハ前述セシ建白書ヲカリフォルニ

ヤ州ヨリ撰舉セシ上院議官及シテ下院議員一轉送シ之
レヲ經テ合衆國代議院(即チ上下兩院)ニ呈進スル順
序ニ著手スヘキ旨ヲ書記ニ命セ然ル後ニ散會セリ
前述ノ建白書及シテ決議ノ件々ハ悉皆採用セララル、所
トナリテ該會議所ノ再議ヲ他日ニ延一タリ

